



WEB認定医教育研修会

テーマ「咬合挙上における注意点」—何を基準に挙上量を決定したら良いのか?—

配信期間

2026年1月26日(月)~2月1日(日)

挨拶

認定審議運営委員会委員長 松崎浩成

今年度の認定医研修会は、昨年に引き続き、WEBオンデマンド配信にて行うことといたしました。

今回のテーマである「咬合挙上における注意点」-何を基準に挙上量を決定したら良いのか?-は、ほとんどの歯科臨床医が日々頭を悩ます治療分野ではないでしょうか?

低位咬合を呈している場合、咬合状態はいうまでもなく、顎関節、pathway、審美的問題を抱えています。

現在、歯科治療のデジタル化、あるいはAIの介入などにより、以前は考えられなかったような治療技術の進化をみますが、今回のテーマに関しては、まだまだ歯科医師の裁量によるところが大きいといえます。

今回科学的根拠に基づく明確な指標、治療方法について渡辺隆史先生に解説していただくことになりました。

日本顎咬合学会であるからこそできる企画といえます。

先生方の今後の臨床に必ずお役に立つこと間違い無いと確信しております。

期間中再聴講が可能ですので、この利点を最大限にご利用いただければ幸いです。

講師

渡辺隆史 先生 (福島県開業)

講演時間 1講演 60分 (計2講演)

申込み切

2026年 1月12日(月)

受講料

会員歯科医師	¥8,800(税込)
会員歯科技工士・歯科衛生士	¥5,500(税込)
会員歯科助手・準会員	¥3,300(税込)

申込み方法

Web サイトよりお申し込みください
URL <https://ago.ac/>



※入金後はいかなる理由にもかかわらずご返金は致しませんので
予めご了承ください

※日本歯科医師会にご所属の先生は生涯研修登録が可能ですので、
お申込みの際に番号を入力してください

WEB オンデマンド配信 URL・パスワード発行

今大会はWEBオンデマンド配信となりますので、配信期間中
であればいつでも視聴していただけます。

参加登録とご入金の確認後、WEBオンデマンド配信URLとID
&パスワードをご登録のメールアドレスにお送りいたします。
(配信の1週間前頃の予定)

10単位
取得

認定医・指導医

認定歯科技工士・指導歯科技工士

認定歯科衛生士・指導歯科衛生士

※2つの講演をすべて受講して10単位(どちらか1つだけの講演を受講されても単位は取得できません)

※受講後の画面上に表示されるアンケートへのご回答をもって受講終了となります。



渡辺隆史 先生

Takashi Watanabe

福島県開業

PROFILE

1982年 城西歯科大学(現明海大学歯学部) 卒
1984年 城西歯科大学口腔診断学講座 助手
1987年 福島県いわき市にて 開業
2012年 特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 理事長

日本顎咬合学会 監事 指導医
日本歯内療法学会 専門医
日本口腔診断学会 認定医
アメリカ審美歯科学会(Academy of Esthetic Dentistry:AAED) 会員
アメリカ歯周病学会(American Academy of Periodontology:AAP) 会員
AO(Academy of Osseointegration)会員
いづな総合歯顎研究会(ITDC)主宰

咬合の再構成を必要としている症例においては、咬合崩壊に伴う歯の挺出や咬耗などによって生じるクリアランス不足や審美障害の改善のために、咬合挙上が必要になることも少なくない。咬合挙上は、下顎頭を中心にした下顎骨の回転運動によって行われるため、アングルのⅠ級咬合はよりⅡ級に、Ⅱ級ではオーバージェットが強くなり、Ⅲ級ではよりⅠ級に近づくことになる。また、挙上量が大きければ、下顎頭は回転運動を伴いながら前下方に滑走運動するため、顎頭位が大きく変化することになる。このように、咬合挙上に際しては下顎位に変化が生じるため、その挙上量に細心の注意を払う必要がある。また、咬合挙上に伴い補綴的な介入範囲は最大となる。一度咬合挙上を治療計画に組み入れれば、全顎的な治療が必要となり、侵襲の大きな治療を強いられることになるため、咬合に対する知識と補綴治療に対する卓越した技術が必要になるだろう。さらに、天然歯に勝るものはないことを鑑みれば、良好な口腔環境を長期的に維持するために、補綴的な介入範囲を最小限に抑えた、いわゆる低侵襲な治療方法を模索する必要も生じてくる。すなわち、咬合挙上に伴う補綴的な介入範囲の拡大に対して、低侵襲治療の概念をいかにして組み入れるかが、咬合再構成治療後の予後に大きく影響してくると思えることができる。

これらのことを踏まえて、咬合挙上の注意点を整理したうえで、何を基準に咬合挙上量を決定したら良いのか、咬合挙上の手法を実際の臨床症例を通して解説する。

●Key Words 1) 咬合挙上 2) 咬合再構成治療 3) 低侵襲治療 4) 下顎位

ご注意ください!!!

「WEB認定医教育研修会」は「認定教育講演」とは異なる研修会です

「WEB 認定医教育研修会」を受講しても、指導医・認定医の更新に必須の「認定教育講演」の参加履歴にはなりませんので、ご注意ください。

「WEB認定医教育研修会」⇒ 受講することにより 10単位が付与されます

「認定教育講演」⇒ 参加履歴が必要となる講演ですので単位の付与はございません

▼ 2026年度「認定教育講演」は、下記の講演が対象となります。

第44回日本顎咬合学会学術大会・総会 (2026年6月13日・14日 東京国際フォーラムにて開催予定)

特別講演 (認定教育講演) プログラム1 2026年6月13日(土) 9:40~11:50 ホールC